

令和7年度 施設自己評価



園名

たかさごSCHOOL千葉ニュータウン

評価基準

A(大変優れている): 施設全体で高い意識を持って取り組み、素晴らしい成果や独自の工夫が見られる状態
B(適切である): 計画通りにしっかりと実施されており、子どもたちが安心して過ごせる安定した状態
C(改善が必要): 取り組んではいるものの、さらにより良くしていくための課題や見直す点がある状態
D(早急な対応が必要): 基準に達しておらず、子どもたちのためにより良い環境へ向けた早急な対応や改善が必要な状態

評価日 令和8年3月31日

No	項目	内容	評価 (A/B/C/D)	意見・改善案
1	園の基本姿勢	全体的な計画は園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている。	A	全体的な計画に基づき、リーダー会議や職員会議等を通して、職員間で子どもの発達状況を確認しながら指導計画を作成できています。今後は、若手職員にも計画のねらいがより深く伝わるよう、会議等での丁寧な共有を増やし、日々の保育に活かしていきます。
2		全体的な計画をより適切なものに改めていくという姿勢を、全ての保育者等が持っている。	A	
3		指導計画を作成するにあたり、一人ひとりの子どもの発達過程や状況、クラスの実態について職員の共通認識のもとに作成している。	A	
4		子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態などについて職員間で話し合う機会を設けている。	A	
5	子どもの権利の尊重	子どもの権利について職員全体で確認し、十分配慮している。	B	児童憲章や法人内研修を通じて職員全体で子どもの権利や個人情報保護についての理解を深め、威圧的な言葉がけがないよう日々の振り返りを徹底しています。今後もこの意識を高く保ち、子どもたちが互いを受け入れ安心して過ごせる環境を維持していきます。
6		個人情報保護について職員全体で確認し、十分配慮している。	A	
7		保育者は、自身が子どもにとって重要な環境であることを十分に意識し、子どもの人権に配慮した対応をしている。	A	
8		子ども同士が互いの気持ちや発言を受け入れられるように援助している(3歳児以上)。	A	
9		保育者は子どもに対して威圧的、命令的、否定的な言葉づかいをしていない。	A	
10	愛着形成	子どもの成育歴や心身の発達等を考慮して、主に担当する保育者を決めている(0・1・2歳児)。	B	一人ひとりの気持ちに寄り添い、信頼関係を築きながら情緒の安定を図っています。登園時の丁寧な受け入れを通じて、生活リズムも個別に配慮できています。引き続き家庭との連携を行い、より細やかな対応に努めています。
11		保育者は一人ひとりの思いを受け止め、共感したり認めたりしながら、信頼関係を築いている。	A	
12		子ども一人ひとりの生活リズムや体調を考慮し、睡眠・食事・遊びのバランスをとっている。	A	
13	環境	各保育室は整理整頓され、雑然としていない。	A	保育室の整理整頓や安全点検を計画通りにしっかりと実施しており、子どもたちが安心して過ごせる状態です。遊具点検、午睡時観察などマニュアルに沿い実施しています。今後は、子どもの興味や発達段階に合わせ、遊びを工夫し主体的に遊べる環境を整えていきます。
14		各保育室には、一人ひとりの成長発達を考慮した遊びを準備している。	B	
15		施設内外や園外保育先の安全点検を実施してから子どもを遊ばせている。	A	
16	健康・安全	子どもが危険な場所や災害時の行動の仕方が分かり、安全に配慮して行動できるよう、計画的に教育・保育を実施している。	B	感染症対策やアレルギー対応をマニュアルに基づき適切に運用し、安全な給食提供と食育を実施しています。保健だよりや給食だよりの内容をさらに充実させ、毎月のお便り以外でも、家庭や地域と連携した健康づくりを推進していけるように取り組んでいます。
17		定期的に子どもの呼吸・体位・睡眠状態を観察し、睡眠時チェック表に記録している。	A	
18		子どもが睡眠している時は必ず保育者が保育室にいる。	A	
19		保健(衛生管理・感染症対策等)に関するマニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	A	
20		アレルギー対応マニュアルが整備されており、マニュアルに沿って対応している。	A	
21		家庭や地域との連携を図りながら子どもの健康増進に取り組んでいる。	B	
22		乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるように、食事の提供を含む食育の計画を作成し、保育の計画に位置づけるとともに評価・改善に取り組んでいる。	A	
23	教育・保育計画	全体的な計画(教育課程やその他の計画を含む)は、園の理念、方針、目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえて、教育・保育のねらい・内容が総合的に展開されるよう編成されている(職員の参画のもとに作成している)。	A	目指す保育方針を職員会議で定期的に共有しています。長期休みの子どもの状況把握もできています。お子さんの発達状況などを把握し、必要に応じて関係機関との連携体制をさらに強化していき、組織全体で子どもたちをサポートしていきます。
24		一人ひとりの子どもの発達状況、月や期の目標、教育・保育の実態について職員間で定期的に話し合う機会を設けている。	B	
25		長期欠席の子どもの状況把握をしている。	A	
26	教育・保育施設ならびに保育者の質の向上	園長は、地域の状況を把握し、目指す教育・保育の方針を理解し職員に伝えている。	A	外部研修への参加や園内での振り返りを通じ、職員の資質向上に努めています。保護者アンケートのご意見も真摯に受け止めて改善していきます。さらに、今後は職員同士の「公開保育」などにも取り組み、保育の学び合いの機会を増やし、園全体の保育の質を高めていき、高砂福祉会の強みである「チーム全体でのスキルアップ」をしっかりと定着させます。
27		幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を十分に理解し、向上心を持って教育・保育に取り組んでいる。	A	
28		社会情勢や環境の変化について常に関心を持ち、時代に適した教育・保育実践のための自己研鑽に努めている。	A	
29		教育・保育実践を互いに見合う等、学び合いの基盤ができています。	B	
30		利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている。	A	
31		保育者等の自己評価結果などに基づき施設長と職員での話し合いを実施している。	A	
32	幼保小連携	児童票・児童要録・幼保小連携計画などを作成している。	A	就学に向けて要録を持参・送付し、小学校と情報共有を図っています。就学を見据えた活動を取り入れ、より滑らかな接続を意識した支援を行っています。また、専門機関の助言を受けながら、園全体で支援方針を共有しています。地域に支援情報発信を行い、子育てに悩みを抱える家庭に必要なサポートが繋がりやすくなるよう努めます。
33		小学校進学するにあたっては小学校へ児童要録を送付、連絡会議等にも出席し、小学校との情報共有を図る。	A	
34		0・1歳児からの教育・保育の積み重ねが5歳児の姿となり、小学校就学への滑らかな移行につながることを全職員が理解している。	A	
35	特別支援	記録を基に、どのような場面で子どもが困っているのかを検討し、必要に応じて専門機関(地域の保健センター、臨床心理士等)の助言を受けている。	B	日々の送迎時の対話や保育参観などを通じ、保護者の方と子どもの成長を喜び合える良好な関係が築けています。第三者評価や利用者アンケートの結果も踏まえ、今後も皆様の声に寄り添った丁寧な園運営を継続していきます。
36		子どもの様子で気になることは関係機関に報告している。	A	
37	保護者、家庭及び地域と連携した子育て支援	地域で行われている子育て支援施策を理解し、必要とする家庭と関係機関につなげ、子育て支援事業の情報を積極的に発信している。	A	
38		子どもの成長発達を保護者と共有する保育参観や個人面談等を設けて、相互理解を図っている。	A	
39		子どもと保護者のおかれた状況を受け止め、保護者とのより良い関係を築き、良好に保つための努力をしている。	A	
40		第三者評価、利用者アンケートに取り組み、その結果を保護者に伝え、教育・保育の改善に活かしている。	A	
41		利用者(保護者)の意見を聞き、改善に努めている(アンケート・行事等)。	A	
42	健康・安全(事故防止)	安全計画(児童の安全を確保するための計画)を策定し、見直し・周知・訓練を含めて運用している。	A	安全計画の運用やヒヤリハット分析を行い事故防止に努めています。苦情解決体制も整備・周知できていますが、ヒヤリハット事例から導き出した改善策の進捗確認をより徹底し、保育の安全性を高めていきます。職員の自己評価をもとに改善事項を整理し、災害時の事業継続計画(BCP)や連絡体制の点検・訓練を定期的実施していきます。
43		事故・ヒヤリハットを分析し、再発防止策を具体化して改善の進捗を確認している。	A	
44	苦情解決・個人情報保護	苦情解決体制(受付・対応・記録・再発防止)を整備し、保護者へ周知して適切に運用している。	A	
45	第三者評価・自己評価の活用	自己評価結果を踏まえた改善計画を作成し、結果の公表(または保護者への説明)を行っている。	A	
46	防災・危機管理	災害時・感染症流行時等の事業継続(BCP)や連絡体制を整備し、定期的に点検している。	A	
考察		今年度の自己評価を通じ、高砂福祉会の理念に基づいた「子ども一人ひとりに寄り添う保育」が施設全体で概ね実践できていることを確認しました。日々の丁寧な保育や安全管理が計画通りに実施でき、子どもたちが安心して過ごせる環境を維持できました。当園は若手職員が多く活気がある反面、全体的な計画の深い理解や臨機応変な対応については、リーダー層からのより細やかなフォローが必要だと感じています。次年度は、「チーム保育」をさらに体現できるよう、職員間のコミュニケーションとフィードバックの機会を増やし、互いに助け合い、共に学び合える風土を定着させていきたいと考えています。		